



KIF UPDATES

公益財団法人かながわ国際交流財団

活動紹介記事などFacebook 抜粋版

www.kifjp.org TEL: 045-620-0011 2020年6月末日発行

新型コロナウイルス感染拡大に対応した 当財団（事業）の現状について 専務理事 浅間 生弥

こんにちは。本年4月1日に当財団専務理事に着任いたしました浅間です。

新型ウイルス感染拡大により湘南国際村センターが軽症感染者受け入れ施設となったため、当財団では同センター内事務所を一時閉鎖し全職員を横浜事務所勤務扱いに変え、一斉在宅勤務を経て現在は在宅勤務や時短勤務等を織り交ぜて業務執行中です。

事業運営のうち「多言語支援センターかながわ」については、在宅勤務に対応した通信環境等を整えGW中も臨時開設するなど積極運営に務めるとともに、神奈川県が緊急開設した「生活支援総合相談窓口」にも連携協力する体制をとりました。

健康・医療や給付金、生活支援など深刻度が高い相談が多く、国や自治体からの情報が日々更新される中で、最新かつ正確な情報の収集と丁寧な提供に努めています。また財団広報全般としても多言語情報提供のさらなる拡充に取り組んでいます。



「かながわ国際協力基金助成事業」については、NGOが活動内容見直し中であるため申請期限を6月末までに延長し、さらにヒアリングを実施して新たな助成ニーズに的確に対応した「新型コロナウイルス対策緊急支援事業」も緊急展開するべく準備中です。

このほか、各種事業は開催延期したものもありますが一部はオンライン型で実施しました。今後も時期を見定めつつ色々な形式を視野に入れて検討してまいります。

また、多くの日本語教室が活動を休止しているため、外国人住民の日本語学習の補完になるよう「日本語学習動画」を作成し6月から配信を開始いたしました。

当財団はこうした様々な体制・事業の見直しや新規事業を積極展開していますが、治療・予防法未確立の新感染症世界的蔓延という劇的な社会状況変化の中にあって、既成の実績や手法に囚われることなく当財団の存在意義に則った事業運営に今後とも積極的に取り組んで参りますので、皆様の一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

教育事業 | 教員向けオンライン研修を実施しました

神奈川県立総合教育センターが主催する「5年経験者研修講座」の1コマを担当させていただきました。先生になって5年、という方々が対象です。

「外国につながるある児童・生徒に関する教育と課題」というタイトルで映像資料を作成し、オンラインで視聴し受講してもらいました。外国につながる子どもたちの背景の多様さや、学校が活用できる支援団体が作成する多言語ツールや自治体の取り組みなどについて紹介した他、外国人保護者に日本での子育てで大変

だったことを話してもらったり、外国につながる子どもとして学校に通った経験について大学生にインタビューした映像も収録しました。

対面ではなかなか紹介することのできないエピソードも、映像資料にすることで受講者へお見せすることができるのは、オンラインならではのメリットかもしれません。研修に参加された先生方からの感想を聞けるのが楽しみです！

報告：星





神奈川県内の高等学校等における国際教育を支援する「高校国際教育支援事業」の一環で、当財団職員のジギャンが神奈川県立横浜国際高等学校の国際理解の授業で「コロナ禍の日本における外国人の現状」と題して、一時帰国中のネパールからオンラインで講演を行いました。学校もまだ対面授業を開始する前でしたので、高校生もそれぞれ自宅などからオンラインでの参加となりました。

今回の講演は、前半では、神奈川県に暮らす外国籍県民の状況に加え、財団が神奈川県から委託を受けている多言語支援センターにコロナウィルス感染拡大に伴い日々寄せられる外国人からの相談内容について個人情報伏せた形でいくつか紹介しました。更に、日本に急増しているネパール人留学生のコロナ禍におけるアルバイトや就職、進学などへの影響についてジギャンが独自に行ったアンケート調査の結果を紹介しました。

後半は質疑応答やディスカッションを行いました。高校生のみなさんは大変積極的に参加してくれました。50分の講演はあっという間に終了し、その後、新聞社の取材もありましたが、ほとんどの生徒が残

り、様々な質問を投げかけてくれました。

高校生からは「授業前は、コロナについては、全世界で感染が拡大しており、日本人も外国人も誰にとっても同じ問題と感じていたが、今日の授業を聞いて、たとえ同じ事象が起きても、言葉の問題や情報量が少ないことが問題をさらに大きくすることがよくわかった。」、「明日は我が身。日本にいる外国人の現状を知れたことで、今の問題やこれから活かせそうなことを見つけることができました。言葉がわからないことの不安は多面に及ぶことを考えると、日本に來ただけでも勇気ある行動で大きな決断だと思います。ビザや法律、個々の会社の状況や医療に関して自分は詳しくないが、外国人と共生できる社会の実現を目指したい」、「コロナ禍で浮き彫りになった外国人労働者問題を始めとする日本の労働関係の様々な問題に向き合うチャンスだと思った。」などの感想が寄せられました。

当財団ではこうした国際教育や多文化共生について無料で県内高校に講師を派遣する制度がありますが、今年は対面に加え、オンラインでの講演も承っておりますので、お気軽にお尋ねください。

報告 | コロナ禍での多言語支援センターかながわの取組み

2020年4月7日に緊急事態宣言が出されました。現在、宣言は解除され、感染者数もやや落ち着いてきましたが、現在も多言語支援センターかながわ（以下「センター」）には、県内の在住外国人から多くの悩みや心配事が電話やメールで寄せられており、スタッフ全員で力を合わせて対応しています。

新型コロナウイルス感染症拡大が深刻だった当初は発熱やのどの痛みなどを訴える方が多かったです。現在では内容にも変化がみられ「仕事がなくなってしまった」「家族を養うお金がない」「今の在留資格では日本での活動の制限があつて困っている」といった深刻な声が寄せられています。その他、「生活音がうるさい」と家のドアに貼り紙を貼られた」といった電話もありました。

社会全体が混乱している中、外国人住民の不安は想像以上のものがあると感じています。言葉や制度の壁に困っている上に、不満の矛先が向けられることもあります。センターは、こういった不安を受け止め、気持ちに寄り添い、少しでも役立つよう努めています。また、センターの強みである県内の自治体や医療機関、支援団体との協力関係を活かし、適切な医療や福祉につなぐよう連携を強めています。

新型コロナウイルス感染症はまだまだ予断を許さない状況です。これからもセンターとしてできることにスタッフ一丸となって対応していきます。

English 中文 Tagalog Tiếng Việt Español Português
नेपाली ภาษาไทย 한국어 Bahasa Indonesia やさしい日本語

多言語支援センターかながわ
Multilingual Support Center Kanagawa

045-316-2770 9:00 ~ 12:00
13:00 ~ 17:15

(注日・祝日・年末年始は休みです) ※問合せは無料です。但し、通話料金はかかります。秘密は守ります。
Closed on Saturday, Sunday, National holidays and New Year holidays. Information is provided free of charge. Confidentiality is maintained.

言語と曜日	月	火	水	木	金
英語 English		Tuesday	Wednesday		
中国語 中文	星期一			星期四	
タガログ語 Tagalog	Lunes	Martes			
ベトナム語 Tiếng Việt		Thứ ba		Thứ năm	Thứ sáu
スペイン語 Español			Miércoles		Viernes
ポルトガル語 Português				Quinta-feira	Sexta-feira
ネパール語 नेपाली	सोमबार		बुधबार		
タイ語 ภาษาไทย	วันจันทร์				วันศุกร์
韓国・朝鮮語 한국 조선어	일요일		수요일		
インドネシア語 Bahasa Indonesia					Jumat
やさしい日本語	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日

困ったことがあったら気軽に問合せください。生活に必要な情報（医療、保健、福祉、子育てなど）や相談するところを案内します。

Email kmlc@kifjp.org URL <http://www.kifjp.org/kmlc>

場所 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター13階（「横浜駅」西口・きた西口を出て、徒歩5分）

